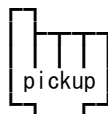


◆ 酒類 2008年2月度実績 対前年同月比較



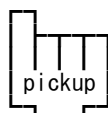
★★★酒類売れ筋情報～前回に引き続きまずは生ビール樽編～

☆			
☆生ビール樽20LのTOP10・・・前年同月比・07年シェア率・08年シェア率			
1 キリン一番搾り樽生20L	98.0	31.3	28.8
2 アサヒスーパードライ樽生19L	108.3	17.7	18.0
3 サッポロ黒ラベル樽生20L	109.1	13.0	13.2
4 アサヒスーパードライ樽生20L	100.5	11.2	10.5
5 サントリーモルツ樽生20L	84.0	10.3	8.1
6 サントリーザプレミアムモルツ樽生20L	490.5	1.5	6.9
7 キリンハートランド樽生20L	102.5	5.2	5.0
8 エビス樽生20L	89.3	3.5	3.0
9 キリンラガー樽生20L	87.0	3.0	2.4
10 アサヒプレミアム生熟撰樽生19L	180.6	1.3	2.2

⇒生ビール樽の20L（19L含む）全体では販売数量は前年同月比で106.8%と6.8%の伸長。

☆			
☆生ビール樽10LのTOP10・・・前年同月比・07年シェア率・08年シェア率			
1 アサヒスーパードライ樽生10L	104.6	34.9	34.5
2 サッポロ黒ラベル樽生10L	104.6	15.9	15.7
3 サントリーザプレミアムモルツ樽生10L	104.9	13.4	13.3
4 エビス樽生10L	118.9	11.8	13.2
5 サントリーモルツ樽生10L	90.5	7.6	6.5
6 アサヒプレミアム生熟撰樽生10L	123.4	3.7	4.4
7 レーベンプロイ樽生10L	115.6	1.9	2.1
8 バスペールエール樽生10L	123.3	1.7	2.0
9 カールスバーグ樽生10L	50.9	3.6	1.7
10 サッポロエビスザブラック樽生10L	98.0	1.3	1.2

⇒生ビール樽10L全体の販売数量は前年同月比で105.8%と19L、20L同様に5.8%伸長。2月キリンビール、3月アサヒビール、4月サッポロビール、サントリーと値上げが続くことから駆け込み需要及びその反動の影響が出ている。



★★★酒類売れ筋情報～日本酒大特集編～

☆			
☆日本酒1.8LのTOP10・・・前年同月比・07年シェア率・08年シェア率			
1 笹一甲州仕込み1.8L	154.1	3.6	5.1
2 佳撰松竹梅豪快辛口1.8L	166.3	2.5	3.8
3 上撰菊正宗1.8L	91.3	3.6	3.0
4 佳撰富久娘辛口1.8L	101.7	3.2	3.0
5 美峰楽天1.8L	100.4	2.4	2.2
6 朱紋両関辛口通1.8L	125.4	1.7	2.0
7 佳撰菊正宗1.8L	82.9	2.4	1.8
8 佳撰桜源氏1.8L	127.2	1.5	1.7
9 精撰高清水辛口1.8L	118.1	1.5	1.6
10 上撰月桂冠辛口1.8L	193.8	0.8	1.4

⇒日本酒1.8L全体の販売数量は前年同月比で109.8%と9.8%の大幅伸長。他の容量に比べて伸びが高いのは、1.8Lの場合2月の気温の冷え込みの影響で燗酒ニーズが高かった為と考えられる。

☆			
☆日本酒720MLのTOP10・・・前年同月比・07年シェア率・08年シェア率			
1 浦霞原酒(生酒)720ML	104.0	12.2	12.3
2 一ノ蔵山廃特別純米酒円融720ML	106.4	5.1	5.3
3 酔仙純米吟醸煌琳720ML	477.8	0.7	3.4
4 越乃景虎名水仕込特別純米720ML	93.5	2.5	2.3
5 酔鯨純米吟醸吟麗720ML	111.5	2.1	2.3

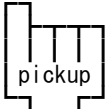
6 極上吉乃川吟醸酒 720ML	-----112.8	-----1.9	-----2.1
7 浦霞生一本純米 720ML	-----400.0	-----0.5	-----1.9
8 浦霞禪純米吟醸 720ML	-----42.3	-----4.5	-----1.9
9 菊水辛口本醸造 720ML	-----74.2	-----2.5	-----1.8
10 越乃景虎本醸造 720ML	-----307.0	-----0.6	-----1.7

⇒日本酒720ML全体の販売数量は前年同月比で102.6%と2.6%の伸長。

☆日本酒180MLのTOP10・前年同月比・07年シェア率・08年シェア率

1 上撰富久娘生貯蔵酒 180ML	-----109.0	-----11.8	-----12.1
2 上撰国盛糖無しお燗瓶 180ML	-----130.0	-----8.3	-----10.2
3 佳撰白鶴お燗瓶 180ML	-----102.2	-----8.2	-----7.9
4 白鶴超特撰大吟醸 180ML	-----107.8	-----7.1	-----7.2
5 上撰菊正宗 180ML	-----120.3	-----6.3	-----7.2
6 上撰沢の鶴 180ML	-----106.1	-----5.1	-----5.1
7 上撰金冠大関 180ML	-----225.0	-----2.3	-----4.9
8 越の誉酒母四段「銀」 180ML	-----	-----	-----4.7
9 吉乃川芳醇 180ML	-----900.0	-----0.4	-----3.5
10 白瀧上善如水吟醸 180ML	-----95.0	-----3.7	-----3.4

⇒日本酒180ML全体の販売数量は前年同月比で106.2%と6.2%の伸長。

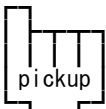


★★★トレンド分析～日本酒復活の兆しか?!～

☆現在、アメリカでは日本酒ブームが起きており、毎年10%以上も伸長し続けている。健康志向の高まりで日本食レストランが人気となり、そこで冷でも燗でも飲めるといふ珍しさ、日本酒の持つ独特の旨みが評価されて人気が高まり、今や米国内の町の小売店でも数アイテムを揃えるくらいに普及している。

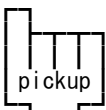
国税庁統計データによると平成17年度の清酒（日本酒）課税数量前年比は、96.2%、平成18年度は95.2%と低下しており、未発表だが、19年度も低下傾向は続いていると見られる。そうした中、本年2月度の実績は、東京都平均気温が昨年度より3.1℃下回った外的与件もあるが、日本酒全体の販売数量は前年同月比で104.7%と4.7%増となっている（1月度でもても同様な傾向が見て取れる）。日本酒の復活の兆しが数量的に確認されたといえるのではないだろうか。

ワインや焼酎ブームに押され長らく低迷してきた日本酒市場だが、蔵元が減少する一方で、こだわりの蔵元が頭角を現してきたことと無縁ではないだろう。飲食店でも、このトレンドを押さえたメニュー設計や演出が必要となるだろう。



★★★トレンド分析～ウイスキー編～

☆ウイスキー全体の販売数量は前年同月比で93.6%と6.4%も大幅に低下した。この数字で見ると、引き続きウイスキー離れが続いている。しかしその中身を見てみると、シングルモルトウイスキーは前年同月比でなんと140.7%と40.7%の脅威的な伸びを示している。熟年層のこだわり志向の高まりの影響、或いは今まで馴染みの薄かった女性客をうまく取り込んでいるからなのだろうか。次回は個別アイテムに立ち入って、より詳細に分析してみたい。



★★★～おいしい焼酎講座第二回おいしさの基本は“だれやめ”～

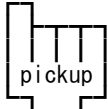
☆お酒を飲む人の数や消費量が減っているといわれますが、その要因

として考えられるのは何でしょうか。焼酎で考えてみると、1. 種類が多すぎる：店頭や飲食店で100銘柄並んでいたら、よほどの知識がない限り、ロシアンルーレットで選ぶようなもの、2. 味の差異が伝わっていない：本当は香りも味も多様な蒸留酒の良さを消費者に伝え切れていないかも…、3. 料理の合わせ方が確立していない：芋、麦、それぐらいしか違いを説明できない、上記3つはどれも正しい。

しかし、もっと大切なのは、「飲むこと＝楽しい」という雰囲気がないことではないかと思うのです。先月、鹿児島で久しぶりに飲む機会がありました。“黒千代香”で暖めて飲む甘い香り、そしてざっくばらんに注いだり注がれたり…もちろん、強制は良くありませんが、みんなで楽しく酒席を囲む。その気楽な雰囲気作りも、お酒の消費量に影響しているかもしれません。お店においては、“取り分け”や“飲み比べ”など、お客様同士が絡みやすい雰囲気を作ることも、繁盛のポイントかもしれませんよ。

株式会社味香り戦略研究所 ソリューションサービス部長 菅 慎太郎
SSI認定焼酎アドバイザー。
鹿児島大学ルネッサンスアカデミー（焼酎学講座）経営管理コース講師。
(詳しくは、<http://www.mikaku.jp/>)

*「だれやめ」鹿児島弁で「だれ」＝「疲れ」「やめ」＝「止め」で、疲れを癒すこと。1日の疲れを癒すために<焼酎を飲む>ということ。



★2007年海外ワイン作柄状況～第二回フランス・ブルゴーニュ地方～
☆

☆ブルゴーニュ(Burgundy)
気候が不安定だった為、ドレーヌや畑によって、スタイルと品質に大きなばらつきが出たのがブルゴーニュの2007年ヴィンテージの特徴となっています。4月は好天に恵まりましたが、6月から8月にかけては曇りがちで、気温も低く雨も多い不順な気候でした。ボルドーと同様に9月は良い天気にも恵まれました。やはり、丁寧な畑仕事と、厳しい選果が成否を分けた面が大きいですが、ブルゴーニュは葡萄畑の面積が小さいところが多い為、ボルドーのシャトーに比べ手間をかけられる分、ボルドーに比べ比較的良いワインができたようです。

白ワイン(シャルドネ種)に関しては、凝縮感のなかにミネラル分と新鮮味は豊富に感じさせ、例年並みのヴィンテージとみられます。赤ワインに関しては、日射量の関係もあり、タンニン分がやや少なめなスタイルになるのではと言われていたようですが、丁寧な抽出を行っていれば、ブルゴーニュのピノ・ノワール種の持ち味である、まろやかさと果実味となめらかなタンニンを感じさせるワインが出来上がると見られます。収量については、選果が厳しく行われたこともあり、例年に比べ少な目になると見られます。

～売れ筋動向については日別、週別、エリア別、個別アイテム別等自由に算出することができます。～
♪♪♪お気軽にお問い合わせ下さい。♪♪♪

⇒⇒⇒ E-mail: aqsh@genos.co.jp